

# YUASA X DAY

いつの日かやってくる現実に備えるために

## 特集 ゼロから始める防災生活

### 「もしものときに備える」 といっても、何から始めればいいのか？

もし大災害が起こったら、今の生活はどうなってしまうのだろうか。

普段の生活をしていると、ニュースで「南海トラフ巨大地震が30年以内に」と報道されていて知っ  
ていても、どこか遠くで起  
こることのようで現実味が  
ありません。ですが、現実  
は日本各地で大災害が発生  
しています。大地震からの  
津波や、巨大台風による暴  
風、大雨洪水や土砂災害が  
日本各地で大きな爪あとを  
残し、復興に大変な時間を  
要しています。また、夏の  
猛暑は最高気温を毎年更新  
していて、熱中症での搬送  
者数を見るとまさに災害レ  
ベルと言ってしまうのでし  
ょう。そう考えるとこの日本  
に生活する我々に安全な場  
所は無いかもかもしれませ  
ん。

広報ゆあさ7月号特集  
は、いつか来る災害への備  
えのための、ゼロから始め  
る防災生活へご案内をいた  
します。

目を閉じて思いを巡らせてください・・・

# ゼロから始めよう。大事なものは何ですか？

あなたにとって大事なものは、守るべきものは何ですか？色々あると思います。  
「自分」「家族」「家」「仕事」など人によって様々だと思います。  
大災害はそれらすべてをいともたやすくさらっていきます。  
防災、何からすればいいの？自分が守りたいものは何か？  
まずは自身の胸に手を当ててみるそこからスタートしましょう。



ご近所で  
あいさつを

あなたは自宅の周辺にどんな方が住まれているかご存知ですか？

一人暮らしのおばあちゃん、ひとりで動けない人など防災の備えができていますか？

家族だけではなく、ご近所さんと備えについてお話してみてください。

普段の生活でのご近所づきあいが災害時の迅速な救助や助け合いにつながります。

地域の絆は  
最も大きな力  
となります。

家の中にある  
もので



両手が使えるリュックサック

ご家庭にあるリュックサックをお使いください。避難の邪魔にならないよう、水(3L)、食料は1日分まで。それ以上に準備する場合は別の袋に3~7日分入れるようにしましょう。



帽子又はヘルメット 歯ブラシセット 懐中電灯



ウエットティッシュ 薬・メガネ・補聴器 下着3日分

あと3ついれるならあなたなら何を入れますか？



ぜひ、好きなものを入れることをおすすめします。飽ひとつでも避難所生活が和むといいです。



美しい部屋は  
安全な部屋

部屋を片付けるということは**防災意識**に**無意識**に繋がっているということ。

片付いている部屋は、地震発生時屋外までの避難ルートが確保できています。散らかっている部屋だと、地震発生時には、思うように動けず、すぐ屋外に逃げられません。

片付いた部屋を**維持**するコツ

お友達を家に招きましょう。来客があると玄関から部屋まで片付ける動機になります。

このようにコツは人それぞれありますが、部屋を片付ける動機がいくつもあれば、美しい部屋が保たれることでしょう。



あらかじめ  
決めておく

とても大事な**約束**

家族と再会する場所を約束しておいてください。

一時的に逃げる場所、避難所生活を送る場所を家族で決めておくこと。決めておくことで、災害直後に家族がバラバラでも、再会できます。

自分の住む地域はどのよ  
うな**災害**が発生するか。

周囲の状況がどの程度で自分が避難するかも決めておくことが大事です。



津波避難マップ  
(ハザードマップ)

湯浅町ホームページから見ることができます。どこへ避難するのが決めておこう！

特集 **ゼロ**  
から始める防災生活

地震・津波は昼夜問わず発生します。まずは**身の安全を確保**してください。



家具などから離れ、低い姿勢を取り、テーブルの下などに身を隠してください。

# 大地震津波が発生したら

逃げる際は、「川に沿って逃げない」「海の方に逃げない」「夜中真っ暗な中でも逃げられるように避難ルートを確認」このことをふまえ、事前に一時避難場所を決めておきましょう。

そして、避難を行うときは原則として車を使用しないでください。狭い道で渋滞してしまい、車に乗っていた人が津波に飲み込まれ命を失うことがあります。

正しい情報を集めることも大切です。テレビやラジオ、行政、消防、警察等の信頼できる機関から正しい情報を集めてください。

状況に応じて、より**高く安全な場所**に避難してください。



津波避難場所



津波避難ビル

## 観光用駐車場に設置している津波救命艇

定員 25 名の津波避難用シェルターです。津波のおそれがある場合は、高台へ逃げるのが鉄則ですが、この救命艇は、どうしても高台への避難が困難な場合の避難施設となります。



巨大地震や津波は歴史上幾度も繰り返して起っていて、今後も避けられないものです。地震大国日本、沿岸地域に位置する湯浅町に暮らす我々は、そのことから眼を背けずに準備をしなければなりません。皆さんがゼロから始めた防災生活はこれからも続き、身の回りから地域の防災へと広がっていくことでしょう。備えましょう、いつか来る X・DAY の日まで。

**家具の固定で安心！安全！**  
家具転倒防止器具設置事業 **設置費用 無料!!**  
先着 50 件 (先着順)  
1 世帯につき 1 回限りの設置で 3 台の固定ができます！  
65 歳以上の方、身体・知的・精神障害者手帳をお持ちの方のいる世帯が対象となります！

**気になるブロック塀ありませんか？**  
ブロック塀耐震対策事業 **補助額は最大 10 万円**  
先着 100 件  
補助金申請  
ブロック塀等の撤去と改善に要する工事費及び工事に伴う経費が対象  
ご自宅や持ち家のブロック塀等の改善をご希望の方は、まずはご連絡ください。

地域防災係 (16 番窓口) 064-1108

地域防災係 (16 番窓口) 064-1108

**防災意識** 浸水区域内の住民の方々に聞きました

## 津波が来るとなったら、皆さんは逃げますか？

参加者 23 名中 ▶ 逃げる：18 名 逃げられない：4 名 逃げない：1 名



逃げられない方は自分や家族に足が不自由で逃げられないと答えた。逃げないという方も足が不自由で逃げるのが難しいため、逃げないと答えた。逃げられないなら近所で助け合って逃げることができるようにリヤカーのような資機材を整備すればいい。助かるために必要なものをまずは地域内で列挙していきましょう。

そんなことはありません。現在いる場所から最短距離の一時避難場所へ逃げてください。落ち着いてから家族と決めている避難場所へ移動してください。

防災無線のスピーカーが倒れてしまっても、防災ラジオで情報は入手できます。停電したとしても、乾電池で電源は入りますので普段から適正な管理をお願いします。

決まった一時避難場所へ逃げないといけませんか？

防災無線が地震で倒れたらどうやって情報を入手できますか？

津波避難ビル

類似する施設として、湯浅駅前複合ビルの建設を予定しています。湯浅町は津波到達まで 3.5 分といわれているので、とにかく高台への避難を全住民に願っています。